

1 社会・治安情勢

(1) カラチ市

2013年9月以降、準軍組織レンジャー及びシンド州警察がパキスタン・ターリバン運動（TTP）等のテロ集団を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模な爆弾テロ等の阻止を図る通称「カラチ掃討作戦」を現在も継続中のところ、重大凶悪犯罪の発生が大幅に減少、テロ発生も減少し、治安が回復していると認められるが、一方、本年4月から8月にかけてテロ集団が警察官を標的として襲撃し殺害するテロ攻撃が連続発生しており、比較的警備の手薄な、いわゆる「ソフトターゲット」に対する攻撃の脅威が顕在することを示した。

また、本年7月にカラチ市郊外において、中パ経済回廊（CPEC）関連事業に従事する中国人が乗った車両に対する爆破テロが発生しており、外国人に対するテロの脅威は依然として高く、市内には多数の武器弾薬を所持したテロリストが潜伏していると考えられるため、十分注意していただきたい。

(2) バロチスタン州

7～9月も引き続き治安機関によるテロリスト掃討作戦が継続され、多くのテロリストの逮捕、投降等あるものの、宗教過激派や民族主義武装集団による異宗派、移民、治安機関やCPEC関連事業等を対象とした標的殺人や爆弾テロ事件は依然多発している。

州都クエッタ市において7月には警察官に対する襲撃事件が頻発しており、8月には軍用車両に対する自爆テロが発生した。同州では、現在も治安機関とテロ集団が臨戦状態にあり、治安情勢は極めて悪い。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪統計

カラチ市警察が発表した7～9月の犯罪統計によれば、カラチ掃討作戦の成果により、殺人、身代金目的誘拐は去年同期より漸減しているが、強盗、強姦等の凶悪犯罪や、市民に身近な窃盗等の発生件数は微増していることから、引き続き十分な注意が必要である。また、薬物所持および武器不法所持事件の多発は、治安機関の取締りの成果と見なしうる反面、暴力団およびテロ集団の資金源とされる違法薬物が蔓延し、テロ、殺人、強盗等凶悪事件の元凶となっている違法武器が広く流通していることも事実であり、治安状況は依然として予断を許さない状況が続いている。主な犯罪種別の内訳は以下のとおり（カッコ内は前年同期）。

- ・ 総犯罪発生件数 9, 335件（9,425件）
- ・ 殺人 122件（144件）
- ・ 身代金目的誘拐 5件（11件）
- ・ 強盗 795件（803件）

- ・ 強姦 26件（24件）
- ・ 窃盗 1,551件（1,416件）
- ・ 薬物所持 1,334件（961件）
- ・ 武器不法所持 1,761件（1,642件）

（２）邦人関連事案

7月30日、カラチ市内ドルメンモール付近路上における警察官を騙る手口による恐喝未遂事案

3 主なテロ関連事案等

（１）シンド州・カラチ

ア 7月9日、シンド州サッカルのローヒリー近くで、現職警察官と元警察官が共謀して実行された身代金目的誘拐事件が検挙された。

イ 7月10日、カラチ市ビン・カシム地区のスティールタウンにおいて中国国籍のエンジニアが乗車した車列に対する手製爆弾による爆破テロが発生したが、死傷者は出なかった。

ウ 7月17日夜、カラチ市オランギ地区で清純国土党（PSP）の活動家1人が殺害され、もう1人が重傷を負った。

エ 7月21日、カラチ市コランギ地区において3人の警察官と、12歳の少年が殺害された。

オ 7月24日、カラチ市グルシャン地区グルザーレ・ヒジリにおいて交通警察官1名が銃殺され、警察官1名が重傷を負った。

カ 7月24日夜、カラチ市内東地区において、アル・カーイダの指揮官アクバル・スワティを含む4人のテロリストが殺害された。

キ 7月26日、カラチ空港に対して自爆テロが計画されていたことを受け、カラチ市内の警戒が強化された旨が報道された。

ク 8月7日、カラチ市ケマリ地区においてテロ対策局がテロ集団TTPに所属するテロリスト3人を殺害した。

ケ 8月11日、カラチ市グルベルグ地区アジザバード付近を警察官が車両で通過中、襲撃に遭い、死亡した。

コ 8月15日、カラチ市マンゴピルにおいてTTPの構成員2名が警察により殺害された。

サ 8月17日、カラチ市ガタップタウン地区において、警察職員2名が発砲され、1名死亡、1名負傷した。

シ 8月19日、カラチ市コランギ地区においてテロ対策局がTTPの構成員2名を殺害した。

ス 8月22日、カラチ市ガタップタウン地区で、シンド州議会議員の息子が武装集

団に誘拐されるも無事救出された。

セ 8月28日、カラチ市グリスタニ・ジョウハル地区の連邦歳入庁前で勤務していた警備員ほか2名が殺害された。

ソ 9月2日、政党MQM-Pのシンド州議会野党代表が武装集団に襲撃された。

タ 9月20日、コランギ警察がテロ集団AQISと交戦となり、そのアジトから大量の武器を押収した。

チ 9月28日、カラチ市スーパーハイウェイにおいて、マリール警察はAQIS構成員を含むテロリスト5名を殺害した。

(2) バロチスタン州

ア 7月6日、クエッタ市において、バロチスタン州の地域政党BNP-M指導者のマリク・ナビード・デヘワルと、ほか3人が銃撃を受け死亡した。

イ 7月7日、クエッタ市キリ・イスマイル地区で、警察官の巡査が銃撃を受け死亡した。

ウ 7月10日、国境付近の町チャマンにおいて、サジッド・カーン・モハマンド警察本部長が乗っていた車が自爆テロに遭い、警備員、運転手もろとも殺害された。

エ 7月13日、クエッタ市キリデバ地区で、警察官少なくとも4名が襲撃を受け、死亡した。

オ 7月19日、マストウング近隣のカラチ・ナショナル・ハイウェイ付近でハザラ人4人が銃撃を受け、殺害された。

カ 7月22日夜、チャンギ地区のダルバンディンのRCD高速道路上において、FC隊員2名が殺害された。

キ 7月23日、チャンギ地区のダウードバッドにおいてFC隊員2名が襲撃を受け殺害された。

ク 7月29日、パキスタン－イラン国境付近のパンジグルにおいて爆発テロが発生し、少なくとも4名が死亡し、5名が負傷した。

ケ 8月12日、クエッタ市のピシン・バス停留所において、軍トラックにバイクに乗った男が接近して自爆テロを敢行。兵士8人を含む少なくとも15人が死亡。40人位が負傷した。

コ 8月14日、ハルナイ県において道路脇に設置されたIEDが爆発し、FC隊員6人が死亡。

サ 8月23日、ケッチ県ダシュティ・セヤフルーにおいてミリタントがFCの車列に対して発砲し、FC隊員2名が死亡した。

シ 8月28日、パンジグルを走行中の車両が、路傍に敷設されていた地雷に触雷し、2名が死亡、周辺の多数の人々が負傷した。

ス 9月6日、ケッチ県ホシャブの部族警察の警察署長が出勤しようとしたところ銃殺された。

セ 9月10日、クエッタ市から30キロ北西に位置するクチャラクにおいて、シーア派ハザラコミュニティの住民4人が銃殺された。

ソ 9月19日、チャマンで自爆テロが発生し、2名が死亡した。

タ 9月26日、ハナ地区でスクールバスに対する爆破テロが発生し、運転手は軽傷を負い、バスの正面ガラスは破壊された。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

カラチ市警察が発表した7～9月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は5件（前年同期1件）発生し、誘拐を巡る状況は数年前より改善しているが、いまだ高い発生率で推移していることから、引き続き十分な注意が必要である。邦人が被害となる誘拐事件は発生していないものの、今年5月にバロチスタン州クエッタ市において中国人2名が誘拐・殺害されており、依然外国人に対する誘拐の危険は高い。テロ組織が資金獲得のため犯行に及ぶ場合や、一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で売り渡す場合もある。当地で生活する場合、誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

5 日本企業の安全に関する諸問題

（1）渡航の際の留意事項

当地では現在、TTP等テロ集団による治安機関に対する報復に対して警戒を強めている状況にある上、比較的警備の手薄ないわゆる「ソフトターゲット」がテロの標的とされる傾向にある。よって、当地へ渡航される場合は、事前に報道等により最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

（2）駐在される場合

当地ではテロの危険がある他、けん銃強盗等の路上犯罪も頻発しており、実際に在留邦人被害の強盗事件も発生している。また、テロ集団による営利を目的とした誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に駐在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け安全対策マニュアル」等各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。